

地元報告会の実施について

1. 目的

知床世界自然遺産地域科学委員会の取組や保全管理上の課題・対策を広く地元で紹介するとともに、科学委員会委員と地元住民との交流、意見交換を目的とする。平成23年度は野外における講座も企画し、知床世界自然遺産の保全管理にも興味関心を持ってもらうことを目指す。

2. 実施主体

主催：知床世界自然遺産委員会事務局（環境省・林野庁・北海道）

協力：斜里町、羅臼町

3. タイトル（仮）

自然遺産しれとこ「科学教室」

4. 平成23年度のプログラム（案）

| 回 | 講師 | 内容など |
|---|--|--|
| 1 | 桜井泰憲 （海域 WG 座長） 牧野光琢 （海域 WG 委員） | 開催日時：7月25日（月） 参考資料2 内 容：根室海峡においてスケソ漁獲量が低迷している理由などについて、現在科学的に判っていることなどを、主に地元漁師や漁協職員などを対象として講演していただく。 |
| 2 | 中村太士 （河川工作物 AP 座長） | 開催日時：9月下旬～10月中旬（先生の希望により調整） 内 容：河川工作物の改良が終了した河川の現場にて、河川環境やサケ科魚類の遡上状況等がどのように変わったかなどについて、講演していただく。具体的な河川については、中村先生よりアドバイスをいただいて決定することを想定。 |
| 3 | 石川幸男 （エゾシカ・陸上生態系 WG 委員） | 開催日時：10～11月 内 容：100㎡運動地での植生への被害状況や、100㎡運動の取組等について講演していただき、岩尾別・幌別地区でのエゾシカ対策の必要性を地域に理解してもらう講座とする。100㎡専門家委員会にあわせて開催するか、もしくは10月ごろに別途開催する。 |